

令和6年度 えがおプロジェクト リフレッシュ事業
「リフレッシュ のとキャンプ(内灘町)～第1クール～」

1 趣旨

- ・令和6年能登半島地震により、被災した児童・生徒に自然に親しみながらの体験活動を提供することで、心穏やかに、心身ともにリフレッシュする機会とする。
- ・楽しかった1学期が終わりに近づき、リフレッシュできる長期休業前に児童・生徒が仲間と寝食を共にすることで仲間を思いやり、自己の成長や自分の良さに気付き、今後の生活に自信を持って生活できるようにする。

2 日程

- (1) 期日 令和6年6月29日(土)～30日(日) 1泊2日
(2) 参加者 小学2年生～中学1年生 23名
(3) 活動内容

1日目【6月29日(土)】	2日目【6月30日(日)】
9:30 受付	6:00 起床・清掃
10:00 出合いのつどい 仲間作り(NOTO ジョイフレンド)	7:00 朝の集い
11:45 昼食 食堂	7:40 朝食 食堂
12:45 みんなのへやづくりタイム	9:00 NOTO どきどきタイム
14:00 NOTO わくわくタイム ① マイフォークづくり ② 野外炊事	運動遊び(講堂) 水遊び(プール)
19:30 入浴	12:00 昼食(弁当)
20:30 ほっこりタイム(焚火タイム)	13:00 フリータイム
22:00 就寝準備・就寝	14:00 入浴
	15:00 振り返り
	16:00 またねの会 解散

3 成果と課題

(1) アンケート結果からの成果(振り返りシートより)

- ① 事業の満足度は、23人中21人が「とても楽しかった」、2名が「楽しかった」という評価であった。事業全体を通して高い評価を得ることができた。
- ② 野外炊事で焼きそばや豚汁をみんなで協力して作ったこと、焚火体験でマシュマロを焼いて食べたこと、フリータイムで好きな遊びができたことなど、様々な活動を通して、「友達がたくさんできた」「初めて会った人と仲良くなれた」という声が多かった。

(2) 事業を通しての成果と課題

- ① 基本的な班を編成したが、活動プログラムのほとんどは班を解体して実施した。全体として、班のつながりよりも参加者全員のつながりが強くなるキャンプとなった。班の活動をもう少し充実する必要もあったと考える。
- ② 2日目は、海での活動を計画していたが、荒天のため所内のプールで水遊びを実施した。児童はライフジャケットを着用したが、入水した低学年児童の中には、足が付かない児童がおり、不安感から十分に楽しむことができなかった様子もあった。



令和6年度 えがおプロジェクト リフレッシュ事業
「リフレッシュ のとキャンプ(内灘町)～第2クール～」

1 趣旨

- ・令和6年能登半島地震により、被災した児童・生徒に自然に親しみながらの体験活動を提供することで、心穏やかに、心身ともにリフレッシュする機会とする。
- ・楽しかった 1 学期が終わりに近づき、リフレッシュできる長期休業前に児童・生徒が仲間と寝食を共にすることで仲間を思いやり、自己の成長や自分の良さに気付き、今後の生活に自信を持って生活できるようにする

2 日程

(1) 期 日 令和6年7月6日(土)～7日(日) 1泊2日

(2) 参加者 小学1年生～中学1年生 20名

(3) 活動内容

1日目【7月6日(土)】	2日目【7月7日(日)】
9:30 受付	6:00 起床・清掃
10:00 出合いのつどい 仲間作り(NOTO ジョイフレンド)	7:00 朝の集い
11:45 昼食 食堂	7:20 朝食 食堂
12:45 みんなのへやづくりタイム	9:00 NOTO どきどきタイム 海辺散策(柴垣海岸)
14:00 NOTO わくわくタイム ① ウッドコースター作り ② 野外炊事	水遊び(プール)
19:30 入浴	12:00 昼食(弁当)
20:30 ほっこりタイム(焚火タイム)	13:00 フリータイム
22:00 就寝準備・就寝	14:00 入浴
	15:00 振り返り
	16:00 またねの会 解散

3 成果と課題

(1) アンケート結果からの成果(振り返りシートより)

- ① 事業の満足度は、20人中17人が「とても楽しかった」、3名が「楽しかった」という評価であった。事業全体を通して高い評価を得ることができた。
- ② 野外炊事の最後に感想を発表したが、子供たちの中からは「みんなで協力したから美味しくできた」という声が多く聞かれた。活動中も積極的に片付けをしたり、掃除をしたりする姿も見られ、子供たちの仲が深まった活動でもあった。

(2) 事業を通しての成果と課題

- ① 低学年が多くいたため、班の活動を中心にプログラムを展開した。その際、高学年はリーダーシップを図っていた。自由時間は、班の仲間だけでなく、他の班メンバーとも一緒に遊ぶ姿が見られた。事業に応じて、臨機応変に対応していくことが重要であると感じた。
- ② ボランティアリーダーが10名参加してくれた。ほとんどのリーダーが事業におけるキャンプが初めてであった。事前に事業内容等について話をしたが、対応方法等の伝達が不十分であったと感じる。彼らの経験値を上げていくことが今後の課題である。

